

書評

## 今井新悟編著『日本語多義語学習辞典 形容詞・副詞編』

(アルク、2012年)

ブラシャント・パルデシ

人間文化研究機構国立国語研究所 教授

本辞典は日本語を母語としない日本語学習者（JFL）を対象とし、現代日本語の多義的な形容詞・副詞84語を今までの辞典と異なった新たな方法で記述したものである。その新たな方法とは認知言語学の枠組みで提案されている多義語の意味ネットワーク（semantic network）の図示であり、語の中心義とそこから派生されたと考えられる語義のネットワークが視覚的に把握できるように工夫されている。意味ネットワークの図示に加えて、中心義から派生義への意味拡張のメカニズム（動機づけ）も明示されているのが特徴的である。語義を例示する例文が使用頻度、コロケーション（共起関係）、難易度を考慮して作成されている。また、当該語に関する文化的な背景知識や文法的振る舞いに関する注意すべき点も記述されている。さらに、読み方に対するルビの提示、語義の英語・中国語・韓国語訳、語義の説明を補足するためのイラストの提示など様々な工夫もされている。これらの点において、本辞典は従来の辞書に見られた、語義を古い順に列挙する方法、あるいは頻度順に列挙する方法のいずれとも大きく異なるといえる。

この辞典が対象とする形容詞・副詞は語を修飾する機能を持ち、意味が名詞・動詞より抽象的である。そのためその習得がより難しいことが外国語を学んだ経験のある人なら直感的に理解できるだろう。上述の様々な工夫により、独学で語彙を学ぶことが多い学習者が多義語を体系的に理解し、言語運営能力を向上させることが可能になると思われる。また、学習者の指導にあたる（日本語母語話者／日本語非母語話者）日本語教師にとっても、語彙指導の負担の軽減につながると思われる。

本辞典が日本語学習者・教師に大いに役立つのは疑いが無いが、いくつかの課題も残る。語彙の選定に関して一例を挙げると、影山（1980）の言う生理温度を表す「暑い」と物体温度を表す「熱い」はともに「あつい」の見出しの下、有機的に関連付けられて扱われているのに対し、生理温度「寒い」は収録されているが、それと対をなす物体温度を表す「冷たい」は収録されていない。他にも、紙幅の制限などにより、記述が簡素化されているところが目立つ。編集者は「はじめに」で「学習者にとってニーズの低い用法をあえて掲載しないようにしています」としているが、その判断は主観的であり、特に上級レベルの学習者が必要とする記述が含まれていない可能性が高いということは否めない。また、媒体（書籍）の制限により、発音・アクセント・イントネーションなど、実際の音として聞きたい情報が欠如している。これらの課題をインターネットという媒体を利用し克服することは十分可能と思われる。本辞典のような新たな枠組みを採用し、スペースの制限がなく充実した記述が可能で、視聴覚的なコンテンツ（音声・イラスト・動画など）も取り入れたコーパス準拠のオンライン辞典の開発が次なるステップであることが浮き彫り

になっている。それを心待ちにしている学習者は私一人だけではないと信じたい。

**参考文献：**

影山太郎『日英比較 語彙の構造』（松柏社、1980）